

になる。

逆に中心線より低くなれば、ひとりよがりの面があらわれ、放縦の傾向が強くなる。

2. 五つの自我状態

エゴグラムにあらわされる「五つの自我状態」を簡単にあらわしてみると、図2のようになる。

図2 五つの自我状態

20	↑	厳格	↑	世話好き	↑	合理主義	↑	無邪気	↑	いい子
18										
16										
14										
12										
10										
8										
6										
4										
2										
0										
	↓	ルーズ	↓	冷淡	↓	現実無視	↓	い權	↓	放縦
		FP		MP		A		FC		AC

また、これまでのべてきたことをもとに、五つの自我状態の性質をまとめてみよう。

- (1) 人は常に五つの自我状態の全体で反応する。  
たとえば、子供を育てる場合でも、子供に対する愛情(MP)以外に、時には子供をうるさく憎らしく思えたり(AC)、将来、自分の面倒をみてもらおうといった打算(A)がからんだりしている。このように、あらゆる事態に対して、人は反応の程度の差が多少あっても、すべてから反応するものである。
- (2) 五つの自我状態は、ある程度相互否定的で、ある程度相互媒介的である。

五つの自我状態については、それぞれの特色をもち、それらの相違(相互否定的な面)をある程度見分けることができる。しかし、同時にそれらは、それぞれの働きに従って、互いに深く影響し合っている(相互媒介的な面)ことも忘れてはならない。

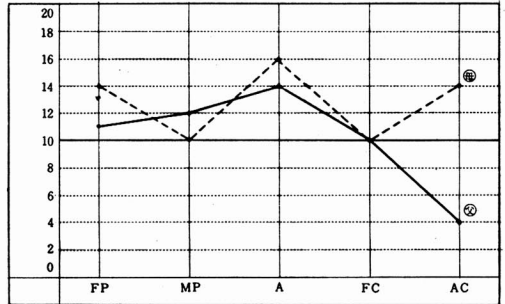
何かの調子で、どれかひとつに心の中のエネルギーが集中してくると、それまでの態度や行動が全く変わってしまい、性格のアンバランスをもたらし、他との調和をも乱してしまうことになることに注意したい。

3. 事例

当教育センターで実施したエゴグラムから、「親の自我状態と養育態度」についてのべることにする。

図3の場合、父親はどちらかというと、子供や他の人との人間関係もうまくいっており、愛情も深く、合理的で、現実的な処理もでき、生き生きとして、自分のやりたいことをやりとげるタイプであるが、父親としての厳格さに若干欠けている。従って、母親の厳格性が高くなり、また、母親は、自分の枠組みが強く、世間の目も気になり、常にだれかにあたるか、自分を責めたりして、人間に喜びを感じる事が少ないタイプである。

図3



このような両親の養育態度から、子供は価値判断の基準をどのように求めたらよいか、とまどいを感じ、いろいろな問題行動をもつようになりやすい。(本事例の場合、子供は登校拒否症である)

図4

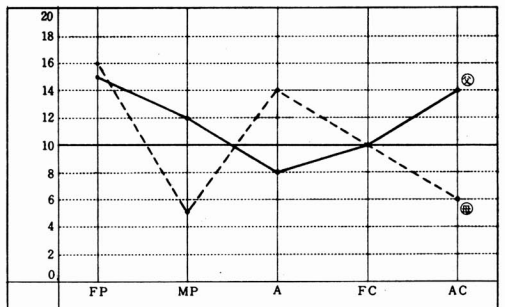


図4の場合、どのような解釈を下せばよいか、ひとつ考えていただきたい。

(本事例の場合、子供は場面かん黙症である)  
いずれにしても、「五つの自我状態」は、その人その人によって、ちがってあらわれてくるものであり、その中から、自分の姿をみつめ直すことによって、自分を知り、他人を知ることができよう。

表1 エゴグラム

氏名 \_\_\_\_\_ 生年月日 大昭 年月 日性別 男女  
以下の質問に、はい(O)、どちらともつかない(Δ)、いいえ(X)のようにお答え下さい。ただし、できるだけ○か×で答えるようにして下さい。

F P	1	子供や妻(または夫)が間違ったことをした時、すぐにとがめますか。	合計 ( ) 点
	2	あなたは規則を守ることにきびしいほうですか。	
	3	最近の世の中は、子供を甘やかしすぎていると思いますか。	
	4	あなたは礼儀、作法にうるさいほうですか。	
	5	人の言葉をささげって、自分の考えを述べることがありますか。	
	6	責任感をつよく人に要求しますか。	
	7	小さな不正でも、うやむやにするのが嫌いですか。	